

令和4年度「少年の主張」全道大会

社会に向けての意見や未来への希望を堂々と発表

1979年(昭和54年)の国際児童年を記念して始まった「少年の主張」全道大会。新型コロナウイルス感染症の影響により、2年度は中止、昨年度はWEB開催だったため、会場での発表は3年ぶりとなりました。今年は道内301校から2万6千人の応募があり、各地区大会を経て、16名が全道大会に進みました。ビデオ審査による厳正な審査の結果、石狩地区代表の金美怜さん(江別市立大麻東中学校3年)が最優秀賞となり、北海道代表として北海道・東北ブロックに選出されました。



「少年の主張」全道大会
発表者のみなさん

受賞者のみなさん

最優秀賞(北海道知事賞)

金美怜さん(石狩) 江別市立大麻東中学校3年
「込められた意味」

優秀賞(北海道教育委員会教育長賞)

藤浪 あいさん(根室) 中標津町立中標津中学校3年
「カミングアウト」

奨励賞

※振興局順

福原 未桜さん(後志) 田邊 惺菜さん(渡島)
仁木町立銀山中 3年 函館市立赤川中 3年
田畑 妃穂さん(胆振) 藤川 才子さん(上川)
むかわ町立鷺川中 3年 名寄市立名寄中 3年
嶋田 桃花さん(日高) 佐藤 雪奈さん(留萌)
新ひだか町立三石中3年 羽幌町立羽幌中 3年

優秀賞(北海道PTA連合会会長賞)

細畑 綾香さん(檜山) 厚沢部町立厚沢部中学校3年
「『戦争を知る』とは」

優秀賞((公財)北海道青少年育成協会会長賞)

岸 楓珂さん(空知) 長沼町立長沼中学校3年
「世界へ届け 私の一步 一個性の違いを認め合おう」

久保 花稟さん(宗谷) 武藤 楓真さん(釧路)
礼文町立香深中 2年 浜中町立浜中中 3年
吉田 百花さん(オホーツク) 五島 一響さん(札幌市)
美幌町立北中 3年 札幌市立北栄中 3年
小島 唯さん(十勝) 佐々木翠優さん(札幌市)
大樹町立大樹中 3年 札幌市立藤野中 2年

最優秀賞 (北海道知事賞)

「込められた意味」

江別市立大麻東中学校3年

金美怜さん



あなたは、「人と違う」ことを恥ずかしいと感じたことはありますか。あなたにとって「普通」とは何だと思いますか。

私の父は韓国人で、俗に言う「在日韓国人」です。私の「金」という苗字も、父のものです。

この苗字を聞いた時、多くの人は、物珍しそうな目で私を見ます。そして、何かを悟ったような顔をします。私は、それを見るたびに、うんざりしました。区別されている気分で、居心地が悪かったからです。

小学生の頃は、苗字をいじられることも多く、基本、笑って返していましたが、やはりいい気分ではありませんでした。友達には悪意がないことを分かっている回数を重ねるごとに、「私は人と違う」「私は普通じゃない」という思いが強くなっていきました。

こうしたことが度重なり、いつからか私は自分の苗字が嫌いになりました。自分で名乗ることも、誰かに呼ばれることも、全てが嫌で仕方ありませんでした。

もちろん、親に話すことなど出来ませんでした。話せば、悲しい顔をさせてしまう、困らせてしまう、と分かっていたからです。

親には言わない、そう決めていたつもりでした。ですが、ある時、母に本音をぶつけてしまいました。

「皆は普通の苗字なのに、どうして私は普通じゃないの?何で私だけいじられなきゃいけないの?こんな苗字なんか、嫌いだし!」

言い過ぎたと思った時には、もう手遅れでした。母は、悲しそうな、困ったような顔をしました。

「そんな顔をさせたかった訳じゃないのに」私はすぐに後悔しました。その反面、私の中には、明確な答えが返って来なかったことに対するモヤモヤした気持ちが残りました。

何も変わらないまま、ただ時が過ぎて、私が中学生になってしばらくした、冬頃でした。父が、ニュースを見て、

「この人、在日じゃないかな。」

と呟きました。疑問に思い、父に聞いてみました。

「どうして苗字を変える人が多いの?」

父は、少し顔を曇らせてから、話し始めました。

「昔は、今よりも差別が酷かったんだ。その名残みたいなものかな。隠

すためだよ。」

父の口から、このことを聞いたのは初めてでした。

そして、私に、父が中学二年生の時に書いた生活体験文を見せてくれました。

読み終えた時には、涙が頬を伝っていました。あまりにも残酷で衝撃的過ぎる内容を受け止めきれませんでした。所々違う送り仮名や決して上手じゃない表現も、今は私の涙を誘うだけでした。この時、初めて知りました。差別やいじめに耐えられず、叔父が自殺しようとしたこと。父が日本に来てから苦勞した数え切れない程、沢山のこと。これまでの父を思うと、涙は止まりませんでした。

父は淡々と話しました。

「俺は、苗字を変える必要なんてないと思ってる。悪いことじゃないんだから。これから先、この苗字で嫌な思いをすることもあるかもしれない。それでも、堂々と生きなさい。」

初めて苗字に隠された父の思いを知りました。解消されることのなかった私の心の中のモヤモヤは、その言葉で消えました。

苗字を変えるか、変えないか。この選択に正解はないと思います。ただ、一つだけ言えるのは父がこの選択をしてくれて、良かったということです。

私は、それ以来、隠すことをやめ、父の望む堂々とした生き方をしたい、と思えるようになりました。

父のおかげで、私には他の人よりも広いルーツがあるのです。それは、何にも代えられない、私の宝物です。

そして、同じような立場の人が生きやすい世の中になってほしいな、と思います。「人と違うことは何も悪いことじゃない」と、誰もが言える世の中であってほしい。そう強く願います。私自身、違いを排除するのではなく、理解し、寄り添おうとする生き方をしていくつもりです。

皆さんも「人と違う」ことをマイナスに捉えるのではなく、プラスに捉えてみてください。

違うことを気に病んだりせず、自分だけがもつ、「かけがえのない一面」と考えてみませんか。きっと視界が広がって、いろいろな思いを知ることが出来ると思います。

私の思いが少しでも多くの人に伝わると嬉しいです。